

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第52号 2008年2月29日(金)

発行：歴史資料ネットワーク



▲神戸開港140年記念兵庫区歴史講演会のようす(2008年1月26日撮影)

目次

巻頭言

歴史的イベントとしての阪神淡路大震災

奥村 弘…2

◆◆特集1◆◆

神戸開港140年記念兵庫区歴史講演会
 「激変する港～近世の兵庫津・近代の兵庫港」 …3

神戸開港140年記念歴史講演会を聞いて
 東 芙美子…4

◆◆特集2◆◆

第3回水損歴史資料修復ワークショップ

…5

ワークショップの感想

…5

◆◆特集3◆◆

平野歴史クラブ第27回歴史講演会

「戦国時代の兵庫をめぐる」 …7

歴史的事件としての阪神淡路大震災

奥村 弘

歴史的なアプローチで大震災を理解しようとする世代が生まれて、新鮮な感覚で大震災を捉えようとしていることを強く意識させられています。

3月29日の「人と防災未来センターリニューアル展示見学会・シンポジウム 大規模震災と歴史資料」は、若手の委員が中心となって準備を進めたものです。若い世代が震災をどのように捉えているのでしょうか。阪神淡路大震災から13年が経ちました。現在、歴史資料ネットワークを支える学会選出の運営委員の多くは20代の後半から30代の前半の世代になっています。震災時には中学生若しくは高校生であった多くの委員にとって、被災体験があったとしても、阪神淡路大震災は、歴史研究者として体験したものではありません。

この間、史料ネットは、今年1月に行われた人と防災未来センターの震災展示のリニューアルについて検討を重ね、委員会としても展示や史料庫の見学を行ってきました。その展示を見た若手委員から出された、様々な意見を聞く中で印象的だったのは、過去に起こったこと、歴史的な対象として大震災をとらえようとする視点でした。

若手の研究者として震災に向き合った私たちの世代は、厚薄はありながらも、大震災について共通体験に支えられた一定の共有意識を持ち、今も続く出来事として受け止めています。大震災やその資料について次の世代もこのような共有意識をもっていると思ってしまうのですが、必ずしもそうではありません。3月29日の企画では、この点が浮かび上がるのではないのでしょうか。私自身は主催者の一員なのですが、とても楽しみにしています。多くの方々の参加をお待ちしております。

私たちの世代についても、大震災とは何であったのか、そこから何をつかみ取り、活動を展開したのかを、再度、歴史的な対象として捉え返し、その内容をしっかりと伝える責務が増していると考えています。共通体験をいかに歴史的な対象として世代を超えて共有していけるのか、敗戦や高度経済成長の体験と同様に、阪神淡路大震災においても、このことが今重要になっています。人と防災未来センターの展示の在り方が、歴史的な出来事を伝え、歴史として共有意識を持つものとなっているのか、ぜひ皆様の目で確かめていただければと考えております。

なお3月16日の史料ネット主催による卒業論文報告会は、これから社会に出て行く学生が社会の中で歴史研究と向かい合っていくことができるよう、市民の方々から様々な意見をいただく重要な機会となっています。またその成果の一部は神戸史学会の会誌である『歴史と神戸』に掲載されるようになりました。関係する大学から地域を対象とする報告を用意することができました。あわせて参加いただけるようお願いいたします。

(おくむら・ひろし 歴史資料ネットワーク代表委員)



兵庫区歴史講演会

「激変する港～近世の兵庫津・近代の兵庫港」

「激変する港～近世の兵庫津・近代の兵庫港」

日時：平成20年1月26日（土）

場所：兵庫公会堂

主催：兵庫区民まちづくり会議・歴史資料ネットワーク・兵庫区役所

協力：神戸市教育委員会

昨年度に引き続き、史料ネットは兵庫区での歴史講演会を行った。当日のプログラムは以下の通り。

講演：「近世のミナトとその役割～兵庫津を中心に～」

河野 未央（神戸大学大学院人文学研究科 地域連携センター研究員）

舞楽：演目 「蘭陵王」

舞人 佐藤 典久氏（北野天満神社 宮司）

講演「近代神戸の形成と兵庫運河」

奥村 弘（神戸大学大学院人文学研究科 教授）

《 概要 》

河野未央の講演は、16世紀末から17世紀初頭という「泰平の世」の礎を築いた時代における兵庫津と、西摂津沿海地域の地域支配編成のようすをとりあげたもの。この時期に兵庫津都市空間や豊臣秀吉による兵庫津支配のあり方など、ハード・ソフト両側面での変化に触れながら、「太閤のミナト」となった兵庫津の姿を示した。

また松尾家文書（神戸市文書館所蔵・松尾家は魚崎村の年寄役・庄屋役などを務めた家）の中に納められた一点の史料をもとに、西摂津地域の浦々が秀吉による大陸侵攻（文禄・慶長の役）において、ことに慶長の役の直前に兵站輸送のための水主徴発を目的として軍事的編成を受けたことを指摘した。さら

にそのような大規模編成の枠組みは徳川の世に覇権が移ったのちも引き継がれたことを示した。

次に、佐藤典弘氏による舞楽披露があった。「蘭陵王」は雅楽の曲目の一つで、華麗に装飾された仮面を被る走り舞である。面を被るのは、蘭陵王がその絶世の美貌を隠すため必ず獐猛な仮面を被って出陣したという伝説に因むが、はでやかな仮面と同じく壮麗な衣装に身を包み披露された舞楽は、非常に優雅であり、来場された方々もその姿に熱心に見入っておられた。

次は、奥村弘氏による講演である。奥村氏は、貿易港として神戸が開港されたが、明治維新後も最初に県庁が設けられるなど、兵庫津の政治的・経済的な重要性が失われたわけ

ではなかったこと、その後新川運河の竣工、湊川改修工事というふたつの大規模土木事業を経て戦前期の兵庫津の基本的景観が作られてきたことを指摘した。また現在の「モダンな都市、神戸」というイメージができあがった歴史的経過についてふれた。

さらに、史料ネットの被災史料保全活動において救済した「八尾家史料」との出会いに触れつつ、「発見」された八尾家史料から明治32年(1899)に完成した兵庫運河について、成立までの経緯などを具体的に紹介した。

なお、八尾家は兵庫運河の開鑿に尽力した八尾善四郎を輩出した家である。

当日は、講演会場の近くに展示会場が設けられ、兵庫津から出土した人骨なども含む近世期の遺物、パネル、当日講演内容でふれた松尾家文書、八尾家史料が展示された。神戸市教育委員会の方とともに講演者それぞれが展示解説を実施。熱心に質問をする方々も見られ、講演会場とともにこちらも盛況であった。(文責：河野未央)

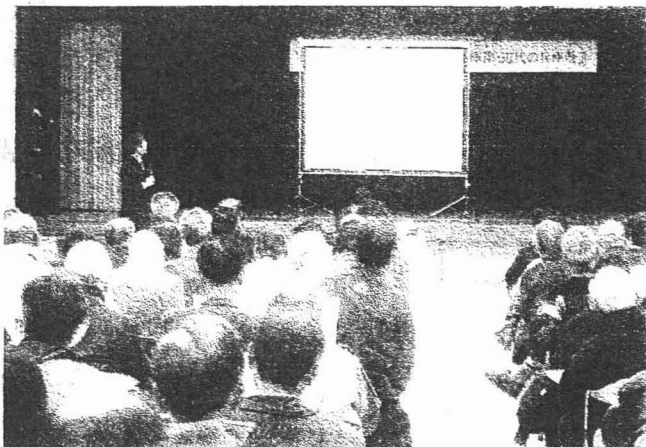
神戸開港 140 周年記念歴史講演会を聞いて

東 芙美子

父がミナト関係の仕事をしていたので、小さいときから和田岬は知っていた。その関係で、平清盛と大輪田泊のことも少しは知ることになった。もう少し深く知ってみようと今回の講演会に申し込んだ次第である。すると豊臣の世から徳川の時代にかけても兵庫津が大きな役割を演じていたことがわかった。特に秀吉に関しては、大陸侵攻と兵庫津は関係が深く、その際に尼崎から兵庫津までの沿岸地域の三つのユニットに分け、水主のシステ

ムを作った。これが朝鮮通信使の接待の折や、大坂城石垣普請の石材を運ぶ際などに受け継がれて使われたという。この地域は歴史的な遺物も多く、地元の発展に寄与したのみならず、大きな歴史的事業などにも大きな役割を果たしたのだと言うことで、兵庫県民としてはもっと多くの人たちが注目すべき場所であると思う。

(あずま・ふみこ)



第3回水損歴史資料修復ワークショップ

《 概要 》

第3回大学巡回水損史料ワークショップは、2007年12月13日（木）に関西学院大学文学部新館にて行われた。本ワークショップは関西学院大学の高岡裕之教授をはじめとする日本史担当の各先生方のご尽力の下、関西学院大学日本史研究室との共催事業として行われた。当日は日本史専攻の大学院生を中心に、他専攻の学生を含めた全11名の参加者を得た。

ワークショップに先立ち、まず奥村代表により史料ネット設立の経緯および活動状況についての説明がなされ、次いで事務局河野未央氏より2004年台風23号以来、これまで史

料ネットが行ってきた水損史料レスキューの活動状況についての説明がなされた。

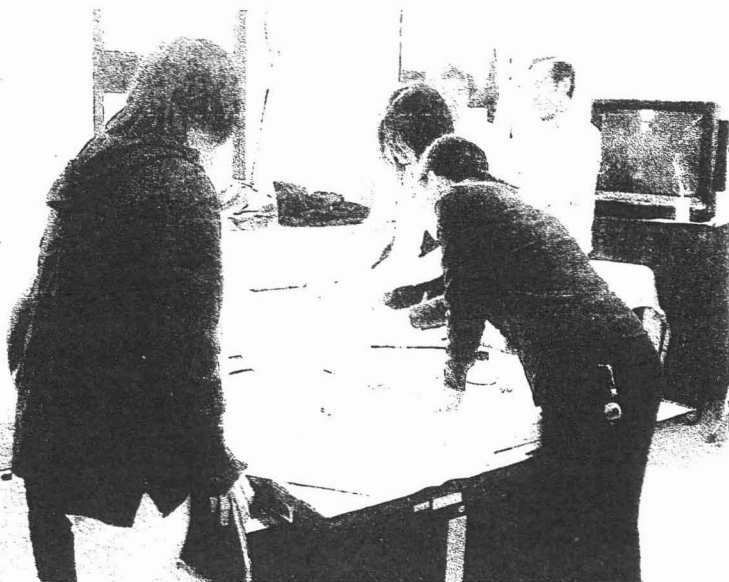
引き続き河野氏を講師として、キッチンペーパーを利用した水損史料修復作業の実習が行われ、参加者の皆さんに水損史料の修復作業を体験していただいた。今回の参加者のほとんどは、実際に研究活動において史料に触れる機会が多い日本史専攻の大学院生であったが、史料を研究対象としてのみならず、史料と社会との関わりということについて考えてもらいよい機会になったものと考えている。実習作業を含めて全1時間半程度で終了した。

（文責：川内淳史 かわうち・あつし／運営委員）

ワークショップの感想 （当日のアンケートより）

■水損した史料が、ペーパータオルを使用した作業であるように復活するということに驚きました。所蔵者の思う史料と私たち歴史学関係者が思う史料のイメージが異なるということは、よく考えれば予想できる事態ですが、そのイメージの相違によって貴重な史料が失われてしまうということは、非常に切ないので、このようなワークショップにより、救出方法を知る人が増えていくと良いと思います、今日はありがとうございました。

（日本史学 修士課程学生）

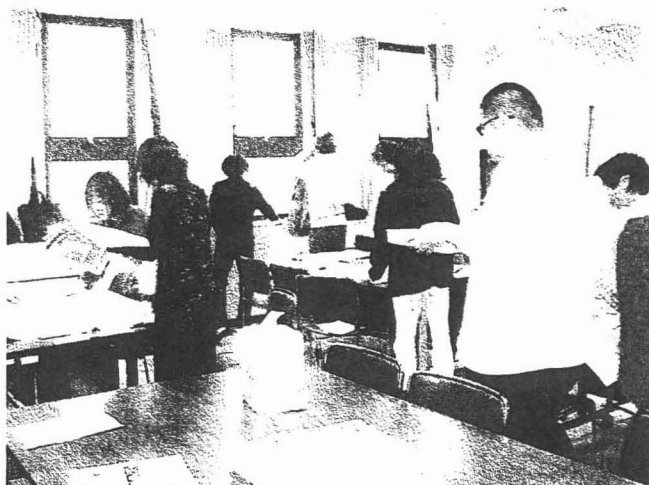


- 学会誌などで史料ネットの活動は知っていましたが、今回実際に参加して、大変な苦勞をともなう作業だと実感しました。単純な作業でしょうが、大量の人員が必要になることだと思うので、今後機会があればお手伝いしたいと思います。

(日本史学 修士課程学生)

- 今回初めて水損史料の修復方法を教わり、意外と単純な作業であることを知りました。しかし、単純であると同時に、時間と労力のかかる作業であることも知ることができました。また、処置方法の一般への認知度の低さ、各自治体間でも取り組みに差があることを感じました。今回はキッチンペーパーによる乾燥方法でしたが、機会があれば真空凍結乾燥等の方法も体験することができればと思いました。このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

(日本史学 博士課程学生)



- 私の所属は歴史学でなく、地理学なので、日常的に歴史資料に触れることはないが、今日のワークショップ参加を通じて、災害時の歴史資料の救出、被災史料の修復には興味を持つことができた。このような史料について日頃あまり考えたことがなかったが、歴史的な史料を保存していくためには必ず必要な作業であり、それは今後もずっと続いていくだろう。被災史料をむやみやたらに水で洗わないこと、ボロボロ

になったからといって廃棄しないことなど、もっとも基礎的なようだが、しかし知っていて正しく処置しなければ史料の状態を損なってしまう。基本的知識を得ることができたことは大きいと思う。今日はありがとうございました。

(地理学 修士課程学生)



◆◇特集3◆◇ 平野歴史クラブ第27回歴史講演会

「戦国時代の兵庫をめぐる」

講演：「戦国時代の兵庫をめぐる」

講師：天野忠幸（大阪市立大学都市文化研究センター研究員）

日時：平成19年12月9日（日）10：00～11：30

場所：平野祇園神社社務所

主催：平野歴史クラブ

後援：兵庫区役所

協力：歴史資料ネットワーク



《協力の経緯と当日の概要》

平野歴史クラブへの協力には、そもそも本年度の史料ネット活動方針に基づいたものである。本年度活動方針には「市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み」という条項があり、そのなかで「地域史の掘り起こしや地域遺産の活用をはじめ、地域の歴史・文化に関わるさまざまな市民・自治体の取り組みへの積極的な連携や支援を継続していく」ことが決定している。こうした活動方針に基づき、史料ネットでは平野歴史クラブの歴史講演会について協力をを行った。

平野歴史クラブはこれまで独自に歴史講演会を企画するなど、熱心に活動を展開・継続してこられている団体である。なお、今回の

歴史講演会の様子は、当日講演いただいた天野忠幸氏のご報告を参照いただきたい。

歴史講演会後、兵庫区役所まちづくり推進課の方に紹介していただき、平野歴史クラブ、講師の天野氏、史料ネット事務局のメンバーでトークサロン（昼食会）の場をもった。平野歴史クラブ・史料ネット双方の自己紹介及び活動紹介、あるいは平野地区の地域史料所在等の聞き取り、さらに今後の活動や連携のあり方についてざくばらんに話し合うことができた。

《 講師の感想 》

戦国時代の兵庫は、応仁の乱により衰退し江戸時代まで復興されない低迷期とされてきた。しかし、震災復興の考古学調査によると応仁の乱の影響は小さく、戦国時代の後半には豪商の正直屋極井氏が明石郡などでの金融活動から台頭することが古文書からわかる。極井氏が帰依する久遠寺は、法華宗の本末関係により京都・尼崎・堺・宇多津・種子島と結合し、フロイスも船待ちで宿泊した。そして、中国船が来航するまでに復興した兵庫に注目し、極井氏を取り立てたのが、四国より近畿に進出した三好長慶である。長慶は織田信長より先に足利将軍を擁立しない武家政権の姿

を示し、ヨーロッパ文化も受容した武将である。長慶は兵庫防衛のため、新神戸駅北側の滝山城に最も優秀な重臣松永久秀を配置した。久秀も盛大な歌会「滝山千句」を催し、長慶や久遠寺僧を歓迎している。戦国時代の兵庫は、後の織田・豊臣政権の前提となる三好政権を支える重要な地域であった。

神戸の場合は戦国時代自体がよく知られておらず参加者の関心は高かったが、現在の信長中心の戦国時代像とは異なる像に、新たな興味を喚起できたように思う。

(あまの・ただゆき／大阪市立大学都市文化研究センター研究員)



◆◇編集後記◇◆

◆今回は史料ネットの神戸開港140年記念兵庫区歴史講演会、水損歴史資料修復ワークショップ、平野歴史クラブ歴史講演会を中心にお届けしています。ご味読ください。

◇まだまだ寒い日が続きます。みなさまいかがお過ごしでしょうか？巻頭言にもあります通り、3月は人防企画、卒論報告会と史料ネット企画が盛りだくさんです。ちょっと寒さを我慢して、みなさまお誘いあわせの上、ご参加ください。お待ちしております。(a)

史料ネット NEWS LETTER No.52 2008年2月29日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後1時～5時)

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp